

やまぶき

埼玉北西部の和算研究の個人通信

(題字 伊藤武夫氏)

小川町の和算家(一)

一、はじめに

好天の去る十一月二十一日、小川町の和算家二名の足跡を訪ねるべく出掛けました。往路は青梅インターから嵐山小川インターまで高速を使ったのであつという間に小川に着きました。

小川町には和算家が多い。既に吉田勝品、福田重蔵、松本(栗島)寅右衛門精弥、久田善八郎などの実家には数年前に訪ねていますが(何れこの「やまぶき」に書きたい)、今回は高橋和重郎と山口三四郎の実家を目指しました。

二、高橋和重郎

高橋和重郎は小川町高見の人で、中爪の細井長次郎の一番弟子です。天保六年(一八三五)に生まれ、明治三十一年に六四歳で没。実家近くにある墓には實算悟道居士

第16号 平成二六年(二〇一四)二月六日

発行部数 十五部 (不定期刊行)

発行者 東京都羽村市

山口 正義

とあります。側面と裏面には碑文がありません。写真を撮らせて頂きましたが写真では良く読めないのです、三上義夫の資料から引用させて頂き次に示します。

君ハ天保六年正月廿五日高橋家ニ生ル。父ハ太郎丸ノ産重次郎氏、母ハまつ子、妻ゆき子ハ上横田中島氏ノ産ナリ。君幼ヨリ才智アリ嘉永元年正月中爪村關流算師細井長次郎氏ニ就キ算術ノ秘法ヲ受ケ歸村シ、有志ヲ募リテ算術研究会ヲ起シ、選マレテ長トナリ、日夜其蘊奥ヲ極メ、数多ノ弟子ヲ教授セリ。元治元年十一月地頭十一代目田村顯政殿ヨリ組頭役仰付ラル明治七年十月廿三日熊谷縣ヨリ副戸長申付ラル同年ヨリ九年迄地改正ノ圖面專務ヲ掌リ、同十年五月地主總代トナル。同十三年四月比企横見郡長鈴木庸行殿ヨリ衛生委員申付ラレ、十八年五月迄勤續セリ。同十七年七月上横田村聯合會議員ニ選マレ、更ニ村會議員トナル。同十八



高橋和重郎の墓

年五月比企郡第十一學区内市野川學校會議員ニ選マル。同廿年三月社寺總代トナル。同廿二年二月大字高見地價修正委員トナル。同年四月八和田村村會議員ニ選マル。同三十年三月文明學校舎新築委員ニ選マル。斯ク村治及弟子ノ教育ニ盡力セシガ、同三十一年四月三十日終ニ逝ケリ、行年六十四歳ナリ、君ニ二男二女アリ、嗣子桂助氏ハ農蠶ニ熱心シ、資産ヲ増セリ。：爰ニ嗣子ノ建碑ニ際シ、余ニ略傳ヲ乞フ、余、弟子トシテ不肖ヲ顧ミズ、喜ンデ之ヲ選ミ以テ不朽ニ傳フ。明治四十二年一月 門弟關口源次郎誌

この碑文に対して三上は「此碑文は全く履歴書とも云ふようなものであるが、此れも亦珍しい。地方の算者が明治時代に於いて如何に行動したかを見る為には、好い例証となろう。」と述べています。その通りだ

と思います。なお、墓の台座には四十名近い門人の名が刻されています。

また、現在遺されている史料を拝見させて頂きました。『算法開蘊』四卷(剣持章行)、『算法地方大成』五卷(秋田義一)の刊本の他に、自著の『算法遺術五百題』などがあります。また、地租改正の時に自ら測量して作成した分厚い『改正台帳』

二巻と作成した地図がありました。小川町の和算家の史料は吉田勝品に関するもの以外はほとんど残っていないようなので極めて貴重なものと思われました。『算法遺術五百題』の序文は能増の石川巖による



改正台帳の表紙と裏表紙
(明治9年1月1日とある)

算法遺術五百題
(明治30年12月15日とある)

もので次のようなものです。原文にあるカタカナの振り仮名は()内に示しました。

蓋シ數學ノ用タル大ナリ大ニシテハ天地ノ廣ノヲ籌(ハカ)リ小ニシテハ毫(カウ)末(シ)ノ微(ヒ)ヲ算フ人世限(リ)無キノ業務亦此數ヲ洩(モ)ルモノナシ然レハ()則チ數ハ一日モ無カルヘカラス一事()モ缺(カ)ク能ハサル()ナリ是ヲ以テ嘗(カ)ツテ六藝ノ一二位シテ百般科学ノ兼修(ケン)シウニ備(ソ)ナフ而シテ其法式亦一ナラス曰ク()點竄曰ク筆算曰ク珠算點竄ハ高尚(シヤウ)ニ失シ筆算ハ字ヲ記(キ)スルノ不便アリ最(モト)モ日用ニ便スルモノヲ珠算トス然モ其法式ヲ()知(チ)悉(シ)ウセサレハ其用ヲ為ス能ハス世ノ數學ヲ以テ仁(ジン)スル者高(カウ)尚(シヤウ)複雑(フクザシ)ノ數ヲ計ルニ至リ()テハ之ヲ點竄筆算ニ譲リ珠算ノ及ハサルモノト為スナリ故ニ世亦其法式ノ著述(チヨジツ)ナシ老兄高橋君嘗(カ)ツテ之ヲ遺(イ)憾(カン)トシ曰ク()數ノ高尚複雑ナルモノト雖モ豈ニ珠算ニ()上ラサルノ理アラシヤ凡ソ人事ハ日ニ高尚ニ()向ヒ月ニ複雑ニ進ム然リ而テ珠算特(ヒト)リ()單純(タンジン)ニシテ已(ヤ)ムヘケンヤ且ツ日用ニ便セスシ()テ可ナランヤト乃チ古來點竄筆算ヲ借()ラサレハ能ハサル法式五百題ヲ

撰抜(センバツ)シ()悉(コトゴト)ク珠算法式ニ變換(ヘンクワン)シ高尚複雑ノ數()ニ當ルモ立トコロニ算盤ニ上セ以テ日用ニ便セントス今ヤ印(エン)行以テ後進二頌(ヲギナ)ントシ()序ヲ余ニ需(モト)ム余(ヨ)其篤(トク)學ヲ喜(ヨロコ)ヒ不(フ)敏(ビン)シ()ヲ()辭(シ)セス一言ヲ卷(カン)首(シ)ニ署(シ)ヨス

石川巖



算法遺術五百題の序文

この序文により刊行しようとしていたことがわかりますが、そのようにはならなかったようです。序文の意は、「簡単に云えば計算には珠算が最も便利なのであるから、代算の問題でも珠算で出来るように試み



算法遺術五百題の問題

た、そうして珠算を普及したいと云ふのである。其当時に於ける和算指南者の心境をも示して居る」と三上は言う。
なお、この『算法遺術五百題』の内容は目録(目次)によれば次のようであり、比較的初歩的な内容のものであります。

- 乗方除□引法(九題)、相場割り之部(九題)、相場搜之部(九題)、利息割之部(九題)、利息搜之部(九題)、普請搜之部(九題)、普請□□搜之部(九題)、材木相場割り之部(九題)、材木割り物尺メ搜シ部(九題)、盈朒之部(九題)、田畑□切之部(九題)、曲算之部(九題)、相應開平

- 開立之部(九題)、角取之部(九題)、角積率之部(九題)、貸附積金之部(九題)、田方位附之部(拾八品)、畑方位附之部(拾九品)、木綿大相場之部、開平方之部(百題)、開立方之部(百題)、三乗方之部(百題)
- 計四八一題

三、山口三四郎

山口三四郎は腰越の字赤木の人で、実家は山間に分け入った高い所にあります(館川ダム近辺)。幼名を友三郎、字は和重、順山と号したようです。文化十年(一八一三)七月に生まれる。各地に学んで帰り、私学舎を設けて教え、弟子約三百人、算法のみでなくいろいろ教えていたらしい。明治二十二年四月二十二日没。七十七歳。墓には順學義山居士と大きく刻されています。十露盤では倉の錠前でも開けると言われた話もあるようですが、和算の伝系は不明。実家の人の話では史料は今は残っていないようです。墓は家の南西の程ないところの墓地にあり、自然石を使った大きな墓で裏面には碑文がビッシリと書かれています。その碑文は次のようなものです(前文は省略し、は改行を示します)。

山口順山幼ノ名ハ友三郎字ハ和重ノ通称ハ三四郎其先ハ下総ノ人也山口樞太郎ノ



山口三四郎の墓

嫡男母ハ山口氏山口三郎右エ門ノ苗裔也文化十癸酉年七月五日順山生レタリ往昔之「祝融ノ災ニ罹リ其ノ事蹟ヲ詳ラカニセスト云フト雖モ傳エ云フ天慶中平将門天誅ニ伏スル矣也跡ヲ此ニ晦スト先生生レナカラニ」シ而恭謙穎敏ニシテ沈毅方正ナリ八歳字ヲ喜三丹下常次ナル者ヲ問ヒ草隸算法ヲ習フコト三年常次ナル者ハ入間郡上野ノ人也」
次テ久永山ニ往テ積ノ天栄ニ師事シ國史漢典ヲ孝フ七年而シテ家ニ在リ父ノ業ヲ受ケ稼織ヲ厲ム天保元年先生歳十八奮然トシ「テ自ラ云フ終年身ヲ採薪耕圃ス勞ニ供□假令ヒ資産ヲ富マスモ何ノ一賤奴ニ過キサルノ□吾レ大功ヲ立テ家ヲ興シ祖ヲ焯カサ」ント是レヨリ山川ヲ跋涉シ賢哲君子ヲ問□経傳ハ殷周ノ旨ヲ修メ詩文ハ唐宋ノ意ヲ探リ卒ニ名四方ニ聞ユ既ニシテ歸省シ弟子」益ス進ム私孝舎ヲ設

ケ郷黨ヲ訓誨シ傍ラ商事ヲ盛ニス嘉永年
間徳望尤高シ部内ノ擢用スル所トナル地
頭細井氏ノ組頭タリ弊事ヲ革タメ兇徒
ヲ殫シ規法ヲ正シ壯士ノ志力ヲ養フ此ノ
時ニ當リ紳縉ハ錦書ヲ以テシ貴顕ハ華口
ヲ以テ招ク固辞シテ行カス所謂ル賈ヲ
待テ自ラ售ラサル者乎遂ニ意ヲ果タサス
退隱シ唯タ歌詠ヲ以テ樂ミトナス諸子
詞壇ニ陪遊ス弟子蓋シ三百人焉一科或ク
ハ數科ニ通スル者凡テ一百有五十餘一日
嗣子ヲ召一テ云ク曾子ノ白ク予力足ヲ啓
ケ予カ手ヲ啓ケ詩ニ曰ク戰々兢々トシテ
深淵ニ臨ムカ如ク薄氷ヲ履ムカ如シ而
今ニシテ後チ吾レ免ルコトヲ知ル小子ト
余モ亦タ斯クノ如ク然リ吾レ一週間後他
界ノ客トナル可シ汝ニ家書數百編ヲ授
ク宜ク護持スヘシ將來謹テ放逸ニスルコ
ト勿レ果シテ言ノ如ク七十七ニシテ終
ル實ニ明治二十二丁丑ノ四月廿貳日也惜
哉茲年明治貳十四年龍舎辛卯四月三周
忌辰二會フ嗣子軍之助氏冢上ニ石標ヲ建
立スルノ際門人小子等先生ノ経事ヲ撰
シ其ノ後ニ彫刻スル者也

四、おわりに

下調べで小川町高見には高橋姓が六軒あ
ることは承知していましたが、三軒目に訪
ねた家が高橋和重郎の実家でした。突然の

訪問にも拘わらず史料の拝見などで高橋喜
久男様には親切に対応して頂きました。記
して感謝申し上げます。

山口三四郎の実家では、おばあさんにお
墓の場所を伺いました。同時に史料は昔は
沢山在ったが今はないということ伺いま
した。今となっては墓の碑文が唯一の史料
ということになってしまいました。和算関
係の史料が急速に無くなっていることを実
感しました。

参考文献

(1) 三上義夫「武蔵比企郡の諸算者」

川越の算額の見学

十一月三十日、藤田雄山貞資先生顕彰会
(深谷市)の史跡見学会に便乗させて頂き、
川越市立博物館保管の算額を特別に見学さ
せて頂きました。お誘いを頂いた野口泰助
先生、並びに松本登志雄様に心よりお礼申
し上げます。

見学させて頂いたのは次の三面です。

- 一、府川八幡神社の算額 安政三年 三問
掲額者は戸田新三郎高常門人六三名
- 一、府川八幡神社算額 安政五年 五問?
掲額者は戸田喜四郎高次
- 一、石田藤宮神社の算額 明治四年 一問
掲額者は大野旭山輝範及び

門人世話人五三六名

一つ目は和紙の上に問題と答術を書き板
に貼った珍しいものでした。文字などはま
だ明瞭に見ることができ驚きました。

二つ目は変形の屋根形をした算額で形自
体は珍しいものです。風化が激しく文字は
よく見えませんでした。

三つ目はレプリカでしたが実物は、287×
87cmの大きな算額とか。門人世話人五三六
名というのも驚きです。恐らく直接の関係
者はもつとずっと少ないのでしょうか：

なお、これらの算額については『川越の
算額と和算家』(川越市立博物館、平成15年)
に詳しく述べられています。



府川八幡神社の算額 (安政三年)

(編集後記は省略しました)